

J Aグループ山形地域・担い手サポ・セン・センター専任アドバイザーの鈴木洋さん(67)が25日、東北農業経済学会から学会賞の木下賞(実践賞)を受賞した。集落営農の設立や農業生産法人の運営、経営改善などに多く関わり、卓越した指導力が高く評価された。

木下賞は、東北と新潟県の大学などの試験研究機関や行政関係者らで組織する同学会の初代会長、故・木下彰氏の寄金を基に創設。東北の農業発展に顕著な業績を上げた学会員に贈られる権威ある賞で、今回が34回目。学術賞、学会誌賞、実践賞、奨励賞があり、実

### 鈴木洋アドバイザーに木下賞

践賞は優れた実践や記録を残した普及・営農指導員、農業者などに贈られる。

鶴岡市の山形大学農学部で開かれた第53回東北農業経済学会の総会で、小沢互会長から鈴木さんらに賞状と記念品が贈られた。

鈴木さんは、1973年に県職員となり、主に農業改良普及指導に長く従事。退職後はJ Aさがえ西村山広域農業活性化センター事務局長、昨年4月からは地域・担い手サポ・センターで専任アドバイザーを務めている。

この間、J Aさがえ西村山や置賜、山形市を中心に集落営農の組織化と運営、法人化などに数多く携わ



賞状を手にする鈴木さん

# 集落営農指導に評価

その功績が今回認められた。

鈴木さんは「農業と地域の将来を住民と共に考える仕事に長く携わることがで

きた上に、名誉ある賞を頂き、恐縮している。多くの関係者の支援のおかげであり、感謝したい」と語った。

受賞報告を受けたJ A山形中央会の今田裕幸常務は「これまで実践で培ったノウハウを、引き続き本県J Aグループのために生かしてほしい」と述べた。鈴木さんは「経営所得安定対策から10年。集落営農も経営安定や複合化、研修生受け入れなど、新たなステップアップの段階に入った。地域の合意に基づき集落型農業法人の育成に、今後も微力ながら力を尽くしていきたい」と話した。

受賞報告を受けたJ A山形中央会の今田裕幸常務は「これまで実践で培ったノウハウを、引き続き本県J Aグループのために生かしてほしい」と述べた。鈴木さんは「経営所得安定対策から10年。集落営農も経営安定や複合化、研修生受け入れなど、新たなステップアップの段階に入った。地域の合意に基づき集落型農業法人の育成に、今後も微力ながら力を尽くしていきたい」と話した。